

## FAQ AR双対型博士人材育成プロジェクト

〈改訂履歴〉

日付	改訂対象
2024年2月6日	初回掲出
2024年2月9日	Q43,Q44,Q45 追加

FAQ番号	分類	質問	回答	備考
1	①申請資格関連	日本学術振興会特別研究員への申請をしていますが、本プロジェクトへの申請は可能ですか？	本プロジェクトにおいて、特別研究員の申請は必須要件ではありませんので申請可能です。採用後は、最終年度を除き毎年度、次年度採用分の特別研究員DC2への申請を行う必要があります。	
2	①申請資格関連	外国人留学生は対象となりますか？	国籍要件は設けていませんので、私費留学生の内、応募要件を満たす学生については申請可能です。ただし国費留学生は対象となりません。また、支援対象学生は修了後も我が国の科学技術イノベーションの創造に関わる意思・能力を有することが求められます。	
3	①申請資格関連	社会人は対象となりますか？	社会人入試を経て入学された方であっても、所属機関から生活費相当額として年間240万円を超える給与、役員報酬またはその他の安定的な収入を得ておらず、「7. 応募資格」に列挙されているその他の除外要件に該当されなければ、申請可能です。	
4	①申請資格関連	年齢制限はありますか？	年齢制限は設けていません。	
5	①申請資格関連	現在、アルバイトで収入を得ていますが、申請できますか？	所属機関から生活費相当額として年間240万円を超える給与、役員報酬またはその他の安定的な収入を得ていなければ申請可能です。ただしアルバイト等の不安定な職であれば240万円以上の収入があっても申請可能です。詳細は事務局までお問い合わせください。	
6	①申請資格関連	現在、RAとして雇用され年額約150万円の収入がありますが、申請は可能でしょうか？またTAをやめる必要がありますか？	所属機関から生活費相当額として年間240万円を超える給与、役員報酬またはその他の安定的な収入を得ていなければ申請可能です。なお、本プロジェクトではTAやRA活動は制限を受けませんが、RAの原資が外部資金の場合、RAの原資側の制限があることがあります。詳細は事務局までお問い合わせください。	
7	①申請資格関連	休学中の場合も申請できますか？	2024年4月1日付での復学が決定している学生については、申請が可能です。	
8	①申請資格関連	秋入学生(2023年10月入学者)は申請できますか？	可能です。ただし、その場合の支援は2年6ヵ月(支援は2023年4月から)となります。	
9	①申請資格関連	標準修業年限とは何年ですか？	3年です。但し、6ヵ月以上の休学期間は除きます。	
10	①申請資格関連	「申請時点で本国からの奨学金等の支援を受ける留学生」の「本国」は日本もしくは母国のどちらを指していますか？	母国です。	
11	①申請資格関連	過去、育児休業により6ヶ月間の休学がありますが、その場合でも標準修業年限の3年間支援してもらえるのでしょうか？	出産・育児・傷病等のライフイベントに伴う6ヶ月以上の休学経験がある場合については、基本的に修業年限まで支援することを前提にしていますが、詳細は個別相談となりますので、採用後に事務局にご相談ください。	
12	①申請資格関連	既に半年間のインターンシップや留学が決まっているのですが、申請は可能ですか？	可能です。ただし、事前に必ず事務局に相談してください。	
13	①申請資格関連	他大学修士課程からの進学者も対象となりますか？	対象となります。	
14	②申請書関連	2・3ページの研究目的等について、図を使用することは可能ですか？全体的に、フォントサイズは指定されていますがフォントは自由ですか？(申込書をDLしてみるとファイル中に多数のフォントが使われており、どれに合わせればよいのかわかりません。)	図の使用は可能です。フォントについては、明朝体やゴシックなど、さらに、下線や太字による強調含め、ご自由にお使いください。	
15	②申請書関連	申請書に「様式の変更・追加は不可」と書いてありますが、参考文献を6ページ目以降に記載してもよいのでしょうか？また参考文献には何を記載すればよいのでしょうか？	ページ数の超過は不可です。申請書は5ページ厳守で作成ください。先行研究の情報として何を記載するかについては、例えば以下のスライドp.28右下のような書誌情報の書き方をご参考ください。 <a href="http://www.rpd.titech.ac.jp/jsps_tokken/docs/tokyotech-jsps-ohue2021-pub.pdf">http://www.rpd.titech.ac.jp/jsps_tokken/docs/tokyotech-jsps-ohue2021-pub.pdf</a>	
16	②申請書関連	今回の申請書はほとんどの箇所文字サイズが11ptで指定されていますが、参考文献についても同様に11ptで記載する必要がありますか？	参考文献については11ptでなくても構いません。ただしページ数の超過は不可ですのでこの点にはご注意ください。	
17	②申請書関連	申請時点で業績がない場合は、業績がない旨だけを記載すればよいのでしょうか？それともDC申請のように業績以外のアピールを書くことも可能なのでしょうか？	可能です。	
18	②申請書関連	プレゼンテーション及び質疑応答審査に関して、これまでの研究成果か、あるいはこれからの研究計画か、どちらを重視したほうがよいでしょうか。	プレゼンテーション及び質疑応答審査の具体的な内容については、書類審査通過者に対して個別に案内します。	

FAQ番号	分類	質問	回答	備考																															
19	③研究費関連	研究費の管理や使用方法についてはどのように行うのでしょうか？	本学の会計システムから使用します(アカウントを作成します)。使用ルールは、東京都公立大学法人研究費取扱規則(平成17年度法人規則第46号)、東京都公立大学法人会計規則(平成17年度法人規則第44号。)、その他法人の定める規則規程等に係る独立行政法人日本学術振興会が交付する科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)(特別研究員奨励費)の研究代表者の規定を準用するものとし、一般的な研究活動に必要な経費として使用いただきます。研究奨励費の使用については、指導教員に確認の上、所属する管理課会計係の指示を受けてください。																																
20	③研究費関連	研究費は繰越できますか？	年度内に支出を完了することが期し難い場合には、最終年度を除き繰り越しが可能です。ただし、再繰越(一度繰越した助成金の翌々事業年度への繰越)は不可となります。採用期間内であっても、研究費の再繰越はできませんので、ご注意ください。																																
21	③研究費関連	研究費は何に使用できますか？	書籍やPC等、ご自身の研究にかかる備品や海外留学のための旅費等や謝金等に使用できます。詳細は採用者ガイダンスにて説明します。																																
22	③研究費関連	研究奨励費(生活費相当額)と研究費の間で流用は可能ですか？	流用できません。																																
23	④事業内容	支援対象とされている「異分野融合に関心のある学生」とは、具体的にどのような学生を想定されているのでしょうか？	自身の研究に加えて、異分野(隣接諸分野を含む)とのコミュニケーションにより、異なる分野の研究や知見、その手法を理解し、自身の研究テーマにそれらを活かしてみたいと思う学生を想定しています(結果的に必ずしも異分野融合することが目的ではありません。あくまでもそのようなことに興味・関心のある学生を対象とします)。																																
24	④事業内容	異分野との交流というのは、都立大内の交流でしょうか。それとも研究としての異分野ということを指していますか？	後者を指しています。																																
25	④事業内容	「博士人材のアカデミックコミュニケーション」というのはどういった内容ですか？	専門分野の異なる人々との相互理解を深めるための、研究コミュニケーションスキルを身に付ける演習です。詳細はシラバス( <a href="https://career.tmu.ac.jp/assets/files/doctorcareer/2023syllabus_akademikkukomyu.pdf">https://career.tmu.ac.jp/assets/files/doctorcareer/2023syllabus_akademikkukomyu.pdf</a> )をご参照ください。																																
26	④事業内容	異分野との交流に関しては具体的にどのような支援(イベント)を予定していますか？	2024年度は、研究リトリート合宿、出前講義、多視座涵養講座、企業とのマッチングイベント、成果報告会などを実施しています。																																
27	④事業内容	事業統括指定の科目及びイベントにはどのようなものがありますか？	2023年度は以下のような科目やイベントがあります。(以下は参考であり、イベントは変わる場合があります)。また複数回実施と記載があるものは1回以上の出席を求める場合があります。 <table border="1" data-bbox="1039 1409 1837 1840"> <thead> <tr> <th rowspan="2">カテゴリー</th> <th rowspan="2">科目・講義・イベント等</th> <th>参加</th> </tr> <tr> <th>既存SPRING</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>海外留学</td> <td>理系大学院生海外研修プログラム</td> <td>推奨</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">大学院 キャリア開発プログラム</td> <td>大学院全学共通科目 「博士人材のアカデミック・コミュニケーション」</td> <td>必須</td> </tr> <tr> <td>大学院全学共通科目 「博士人材のキャリア形成」 「企業における知的財産マネジメント」</td> <td>推奨</td> </tr> <tr> <td>博士人材のキャリア講演会(複数回実施)</td> <td>推奨*</td> </tr> <tr> <td>インターンシップ</td> <td>博士人材の研究インターンシップ</td> <td>推奨</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">各種トランスファラブルスキルの 提供</td> <td>出前講義へのエントリー</td> <td>必須</td> </tr> <tr> <td>多視座涵養講座(複数回実施)</td> <td>推奨*</td> </tr> <tr> <td>研究リトリート</td> <td>推奨</td> </tr> <tr> <td>各種研究力向上WS・起業イベント・企業とのマッチングイベント</td> <td>推奨</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">その他</td> <td>成果報告会</td> <td>必須</td> </tr> <tr> <td>外部メンターとの面談</td> <td>必須</td> </tr> </tbody> </table>	カテゴリー	科目・講義・イベント等	参加	既存SPRING	海外留学	理系大学院生海外研修プログラム	推奨	大学院 キャリア開発プログラム	大学院全学共通科目 「博士人材のアカデミック・コミュニケーション」	必須	大学院全学共通科目 「博士人材のキャリア形成」 「企業における知的財産マネジメント」	推奨	博士人材のキャリア講演会(複数回実施)	推奨*	インターンシップ	博士人材の研究インターンシップ	推奨	各種トランスファラブルスキルの 提供	出前講義へのエントリー	必須	多視座涵養講座(複数回実施)	推奨*	研究リトリート	推奨	各種研究力向上WS・起業イベント・企業とのマッチングイベント	推奨	その他	成果報告会	必須	外部メンターとの面談	必須	
カテゴリー	科目・講義・イベント等	参加																																	
		既存SPRING																																	
海外留学	理系大学院生海外研修プログラム	推奨																																	
大学院 キャリア開発プログラム	大学院全学共通科目 「博士人材のアカデミック・コミュニケーション」	必須																																	
	大学院全学共通科目 「博士人材のキャリア形成」 「企業における知的財産マネジメント」	推奨																																	
	博士人材のキャリア講演会(複数回実施)	推奨*																																	
インターンシップ	博士人材の研究インターンシップ	推奨																																	
各種トランスファラブルスキルの 提供	出前講義へのエントリー	必須																																	
	多視座涵養講座(複数回実施)	推奨*																																	
	研究リトリート	推奨																																	
	各種研究力向上WS・起業イベント・企業とのマッチングイベント	推奨																																	
その他	成果報告会	必須																																	
	外部メンターとの面談	必須																																	
28	⑤その他	留年した場合は引き続き支援対象となりますか？	標準修業年限を超える期間については支援されません。																																
29	⑤その他	休学した際にも引き続き支援対象となりますか？	出産・育児・傷病・留学等で、学生が研究を継続することが困難になり休学した場合には、個別の事情に応じ、支援期間の中断・延長等を行うことも可能です(原則2年間)。なお、休学期間が年度をまたぐなど長期に及ぶ場合、予算・財務会計制度上の問題が生じることも考えられますので、休学が想定される場合には早めに事務局へご相談ください。																																
30	⑤その他	研究室を変わっても引き続き支援対象となりますか？	対象となります。ただし学外への研究室へ異動される場合は必ず事前に事務局へご相談ください。																																
31	⑤その他	研究奨励費はいつ振り込まれますか？	各年度6回、原則として偶数月に2ヶ月分をまとめて、採用学生が登録した口座に支給月末日までに振り込みます。(ただし初回のみ5月となります)																																
32	⑤その他	プロジェクトに採用になった場合は、扶養義務者(親等)の扶養から外れる必要がありますか？	研究奨励費等の受給により、年額130万円以上の恒常的収入を得ることとなったときは、家族の健康保険等の被扶養者から外れ、採用学生本人が国民健康保険に加入する必要が生じる場合があります。 ※国民健康保険料については自治体によって金額が異なるため、居住する市(区)役所又は町村役場の国民健康保険担当窓口を確認してください。 ※扶養義務者(親等)の職場等における扶養手当等の取扱いについて確認するよう、扶養義務者にお伝えください。 ※所得税における扶養の扱いについては、お近くの税務署までお問い合わせください。																																

FAQ番号	分類	質問	回答	備考
33	⑤その他	日本学生支援機構(JASSO)や他奨学金との併給は可能ですか？	本事業は「学生が研究に専念できる環境を整備」するものであり、JASSOの奨学金と性質が異なることから、貸与型・給付型のいずれであっても、併給は基本的に可能です(生活費相当額として十分な水準を給付型で提供されるようなケースが仮にある場合は、別途事務局までご相談ください)。なお、上記整理とは別に、JASSOにおいて奨学金の併給を不可としている可能性がありますので、必ず JASSOにも確認を取っていただくようお願いいたします。また、R5年度以降、大学院博士課程で第一種奨学金の貸与を受けている者が、JSTが実施する「科学技術イノベーション創出に向けた大学フェローシップ創設事業」又は「次世代研究者挑戦的研究プログラム」による支援を受ける場合は、「特に優れた業績による奨学金返還免除制度」における返還免除認定の対象外となりますのでご注意ください。	
34	⑤その他	研究奨励費による収入は所得税、住民税の対象となりますか？	研究奨励費(生活費相当額)は雑所得として扱われるので、所得税、住民税の課税の対象となります。詳細は近隣の税務署にお問い合わせください。	
35	⑤その他	履行義務において、事業統括が指定する本学大学院キャリア形成支援科目を履修すること(あるいは講義・イベントに参加すること)がありますが、2年次、3年次であってもこれらの科目を履修しなければならないのでしょうか。標準修業年限の間に履修できなかった場合は、研究奨励費や研究費を返還しなければならないのでしょうか。	やむを得ない理由で履修・参加できない場合は個別に事務局に必ずご相談ください。標準修業年限の間に、特段の理由なくこれら履修や参加が確認できなかった場合は、採用学生取消となり、返還を求める可能性があります。	
36	⑤その他	一度プロジェクト採用学生となった場合、標準修業年限の期間中は研究奨励費や研究費が支給されるという理解で良いでしょうか。毎年度申請が必要でしょうか。	毎年度、指定の研究活動報告書を提出いただくことにより継続採用が認められます。毎年度の申請は必要ありません。ただし、研究活動報告書の提出がなされない場合、また履行義務が果たされていない場合は、採用学生取消となる可能性があります。	
37	⑤その他	FS-SPRINGプロジェクトでは毎年DCへの応募が必要だったと記憶しておりますが、AR双対型博士人材育成プロジェクトでも同様に応募が必要なのでしょうか。	応募要領「8. 採用学生の履行義務」に記載の通り、最終年度を除き毎年度、次年度採用分の特別研究員DC2への申請を行う必要があります。	
38	⑤その他	採用の審査官は都立大の方ですか？あるいは外部機関ですか？	審査及び審査委員については非公開とさせていただきます。	
39	⑤その他	現在企業に勤めて給与をもらっており、来年度(入学後)は退職する場合でも、応募は不可能ということでしょうか？	応募は可能です。採用された場合、退職証明書などの書類を提出いただけます。	
40	⑤その他	本プロジェクト採用中に、海外インターンシップに参加することは可能でしょうか。また、インターンシップ先は個人で選択することが可能でしょうか。	いずれも可能です。ただし、事前に必ず事務局にご相談ください。	
41	⑤その他	過去の採択状況(応募数や採択数)を知ることはできますか？	審査に関わることとなりますので、申し訳ありませんが非公開とさせていただきます。	
42	⑤その他	同意書にある「2. 指導教員の所見(任意)」はどのような扱いになりますか？	本欄は、選考に際し、審査委員が必要に応じて参照することができる取扱いとします。審査自体は所定の申請書およびプレゼンテーション及び質疑応答審査、合議審査で審査されます。なお当該項目欄については、未記入であっても同意書として受領されます。	
43	⑤その他	書類審査の時点で不採択となり、対面審査を行えない可能性はありますか？	令和6(2024)年度は書類審査、プレゼンテーション及び質疑応答審査の2つの選考を行い、合議審査により採用者を決定します。書類審査の段階での足切りは現時点では行わない予定です。	※2024/2/9追加
44	⑤その他	プレゼンテーションと質疑応答を含み約15分とのことですが、具体的な時間配分は決まっていますでしょうか？	「プレゼンテーション及び質疑応答審査」の具体的な集合時間および時間配分は、実施日(3/17(日))の1週間前までに応募申込フォームに記載されたメールアドレスに通知します。	※2024/2/9追加
45	⑤その他	「東京都立大学領域リフレーミング(Arena Reframing: AR) 双対型博士人材育成プロジェクト」と「東京都立大学 博士研究力強化支援プロジェクト」は、いずれも特別研究員に採用された場合、特別研究員からの支援に切り替えになるのでしょうか。	いずれのプロジェクトも特別研究員に採用された場合は特別研究員からの支援に切り替えていただき、採用されていたプロジェクトからの支援は終了いたします。ただし、その場合も、採用されていたプロジェクト主催の一部イベントには引き続き参加可能です。	※2024/2/9追加